

玉川今昔物語

不思議なもので、毎日歩いている道で空地を見つけると、そこに何があったかなかなか思い出せないことってありませんか？そしてそこに新しい建物でも建ってしまうと以前そこに何があったかだんだんと記憶が薄れていってしまい、ちょっと寂しい気持ちになったりして……。今回はチョット昔にタイムスリップして忘れてはいけない昔の玉川をお届けします。2007年に用賀で開催された「たま・玉・用賀さくら祭り」の時に展示した写真を中心に懐かしの風景をどうぞ。



世田谷区立郷土資料館に整備途中の環状8号線の写真がありました。上用賀付近としか書いてなかったのですが現在のどの辺りにあたるかわかりませんが、何となくこの辺かな？というところで写真を撮ってみました。逆方向かもしれませんが、お許しを。とにかく高い建物がひとつもないのに驚かされます。素晴らしい見通し、素晴らしい空の広さに感激。



左は昭和28年、砂利を運ぶ貨物車、玉電用賀駅付近です。右の写真が同じアングルで撮影したもの。チョットアンビリーバボーですよ。人間は便利さを手に入れた代わりに豊かさを手放してしまったような気がするなんて言ったら大げさですか？



黒沢竜様提供



昭和30年代、用賀中町通り「なおい小鳥店」さん前です。奥に見える一番右、よしずがあるのが現在の「梅寿司」さん。なんか、現在より道幅が広いような気がします。いかがでしょう？たった50年で街がこんなに変貌してしまうなら今から50年後は一体どうなってしまうのでしょうか？

上の写真は、今まさに用賀駅到着するところの玉電。この踏切は現在でいうと喫茶店「珈琲譚」のところの十字路でしょうか？滝本医院さんは昔はもっと十字路寄りであったのでしょうか？玉電は国道246号線を駒沢をすぎてから右斜め桜新町の旧道へ入り、用賀を通り、瀬田の交差点を越したら派出所の左手を通り、田園都市線の地上部分を通して二子に向かいました。



用賀中町通の馬事公苑駐在所の昔の写真が世田谷区郷土資料館にありました。現在はモダンな建物になっており、馬の馬蹄に見立てた入口でお馴染みです。そしてここは現在も駐在所です。昔の写真で駐在所裏の右手に洗濯物が干してあるのが微笑ましい感じがします。

* いろはに刀サッチ#23「む」* ～無理が通れば道理が引っ込む～



「む」は、江戸では「無理が通れば道理が引っ込む」で、道理に外れた事が幅をきかすようになると、正しい事が行われなくなる、という意味。大阪では「無芸大食」で、特技や取り柄がないにもかかわらず、食べることだけは人並みであること。京都では「昔操った杵柄」で、昔習いおぼえた技能。またその腕前が長い年月経ても衰えないで発揮できる、という意味。オジサンギャグで「昔取った篠塚」というのがありますが、えっ！知らない？知らない方がいいかも知れません。これからの時代。そう思います。